

「今年は大阪万博開催の年です」



総本部長 古田 哲壮

明けましておめでとうございます。

会員の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は思わぬ先生方の訃報があり、総本部前会長地藏哲體先生をはじめお別れをした先生方が数人ありました。ご冥福をお祈りいたします。

令和7年は巳年（へび年）です。へびは脱皮することから、復活と再生を意味するため、新しいことが始まる一年だといわれています。

昨年10月に開催された全国青年部大会では若い人たちからのパワーをいただきました。大会では、構成吟士佐日記をはじめ、生き生きとした青年部の皆さんの吟詠を聞き、「これからは頼むよ」という思いが強くなりました。上野青年部長をはじめ全国から集ってきたすばらしい仲間たちに頑張っていたいただきました。会員が減ったという悲観論もありますが、反面まだこれだけ若い人たちがいるのも心強い事実です。また、来賓で来られた中華吟詠研究会の皆さんの参加は今後の中国各地での広がり值得期待しているところです。

ところで、総本部として会員増員が一番の目標ですが、昨年90歳を過ぎた方が入会したいと来られました。矍鑠としてお

れ、少し前までコーラスをやっていたが、コーラスは集団での活動が主で、ついていくのがしんどくなり、詩吟をやってみたということでした。確かに詩吟は合吟などを除き、ほとんどが個人プレーだと気づきました。その方はコーラスの経験があるので音感もよく、声の伸びは年齢を感じさせないもので、九十の手習いということでした。

「人生百年時代に、楽しく生活する上で、吟詠は生涯の楽しみに最適です。いつまでも健康で充実した日々を過ごすため、詩吟の門をどうぞたたいてください。」と言ってきました。まさにコーラス経験者の方はそのとおりです。

総本部では1月中旬に新春吟詠大会、2月はじめに吟道大学講座の開講があります。多くの会員の皆さんのご参加をお待ちしています。

令和7年は大阪万博開催の年でもあります。EXPO'70（大阪万博）を覚えている方も多いと思います。今回もいろんなアイデアが網羅された万博と聞いています。詩吟の魅力の再発見となるヒントを得られないのか、再生に向かうきっかけの年になればと願うところです。

新年が皆さんにとっていい年になるようお願いし、新年のあいさつとさせていただきます。